

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 子どもの居場所づくり	② 施策番号	7404
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育委員会	生涯学習課(青少年センター)		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	おおむね18歳以下の子ども
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	おおむね18歳以下のこどもに安全・安心に集える居場所を提供する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	学校、行政、地域コミュニティが連携して青少年を健全に育成していくことが求められている。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方
①	利用者(青少年センター・旧新家幼稚園)	人	安全・安心な居場所として利用してもらっている青少年センター等の利用者数により、居場所の提供がどの程度できているかわかる。
	計算式		
②			
	計算式		
③			
	計算式		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
①	利用者(青少年センター・旧新家幼稚園)	人	目標値	9,000	9,000	9,000	7,000	8,000	H30年度から青少年学習活動事業の一部を元氣広場推進事業へ移して記載。 ※R1からは市民交流センター分も加算。 移転の初年度であるR1年度は当初認知度が低く、4月の利用者は少なかったが、オープニングイベントや校区及び隣接校区の小学校へのPRの後は増加した。 新型コロナウイルス感染拡大により、3週間休館し、春休みの開館も時間を制限して行ったため、トータルとしては減少となった。
			実績値	6,096	8,282	5,248	—	—	
			達成率	67.7%	92.0%	58.3%			
②			目標値						
			実績値						
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1	子ども元氣広場推進事業	参加者数	人	8,282	5,248	4,800	9,689	16,072	14,497	B	イ b	◎
2	施設維持管理事業	修繕費	千円	359	318	200	12,014	8,676	8,619	A	ア	
3	子どもの居場所づくり事業	延べ参加者数	人	—	1,049	1,100	—	5,910	6,772	A	ア	○
4												
5												
6												
7												
8												
計	3						21,703	30,658	29,888			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	子ども元気広場推進事業を実施することにより、子どもたちにとって安心・安全な居場所を提供できる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	令和元年度から、新青少年センターと市民交流センターでの児童館的事業も始まったが、オープニングイベントまでの約3週間は認知度が低く、来館者がいない日もあったこと、さらに、2月下旬から新型コロナウイルス感染拡大により来館者が減少、3月に入り3週間程度休館となった。春休みも時間を区切り3部制とし、人数を押さえながら開館したことから大幅な減少となった。R2年度についても、あらたな生活様式を前提に居場所づくりに取り組むが、来館者の減少をどれくらい抑えられるかが課題である。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	子ども元気広場事業においては、市民ボランティアの協力が重要であり、事業の充実にはボランティアに協力してくれる人材不足が課題となる。理想としては、地域の市民ボランティア中心の子どもの居場所となればよいが、現状は市がメインとなり、市民に手伝いをしてもらっている状況。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	青少年センターや市民交流センター、各小学校など様々な場所で居場所づくりを行うことができており、適正。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	保護者の働き方や、家族の形が多様化する中で、子どもたちが放課後に安全に安心して過ごせる場所の提供は国全体として望まれている事業であり、さらなる重点化が必要。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	行政のみで居場所を維持するのは人員的にもコスト的にも難しく、いかに市民ボランティア等を取り込んで、地域ぐるみの見守り体制を作っていくかが課題である。また、あらたに感染症対策の観点も取り入れながらの居場所づくりとなり、安全面も検討すべき点である。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	現在の居場所について、利用する子どもたちの意見を聞き、居場所の内容を充実させる。感染症対策として、遊び方の工夫を行う。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	全校区で居場所づくりができるよう事業の拡大を行う。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	既存団体も含め、居場所の重要な担い手となる組織との連携。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	子ども元気広場の開設を通じた居場所づくりが適切に実施されている。 今後の市内各所における事業拡大については、各種団体や地域とも連携した取組について検討を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある